たくさんの「できた！」で
子どもの育ちを支える

# ポジティブな行動支援による保育

～子どもも保育者も笑顔があふれる園をめざして～

令和2年2月　徳島県教育委員会

## ポジティブな行動支援とは？

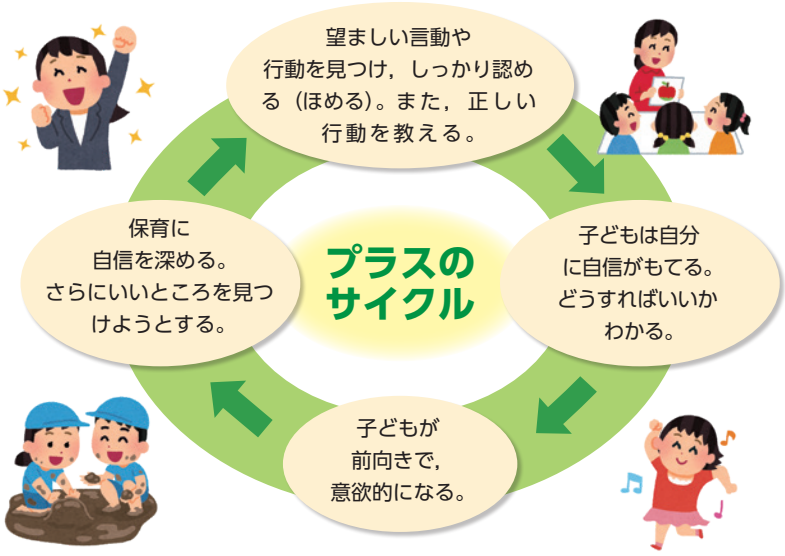
### ポジティブな行動支援で，子どもたちの成長の後押しを !!

ポジティブな行動支援（Positive Behavior Support）は，子どもの成長を促す具体的な手法の一つです。
この方法を保育に採り入れることにより，先生方の「こんな子どもに育ってほしい」という願いを形にし，子どもの社会性や主体性を伸ばすことができます。

子どもの望ましくない行動を保育者が叱責や注意の対象としてのみ捉えてしまうと，どうしても叱責や注意を繰り返してしまう。

**ポジティブな行動支援ではここに注目！**
年齢や発達段階，個人の成長・発達によりできるようになっていることがたくさんあります。その行動に注目し，ほめる･認める･励ますを繰り返すことで，意欲を高め，望ましい行動を増やします。
結果として望ましくない行動が減っていきます。

**ポジティブな行動支援を進めると…**




**プラスのサイクルが回り出す**

## どんな仕組みですか？

### 子どもの意欲を高める「引き出す工夫」と「認める・ほめるための工夫」

ポジティブな行動支援の最大のポイントは，子どもたちが「わかった！」「できた！」と感じられるように，2 つの側面からさまざまな工夫や仕掛けの設定を行います。

**引き出す工夫**

- 望ましい行動が起こりやすい環境設定
- 子どものやる気が起こる仕掛けや手がかり
- ルールの明確化
- 具体的な目標設定
- わかりやすい言葉がけ
- 安心感を感じられるような教室の雰囲気
- （準備をして）子どもに任せる

**目指す姿**

**望ましい行動**

様々な経験や環境を通して学んでいきます。

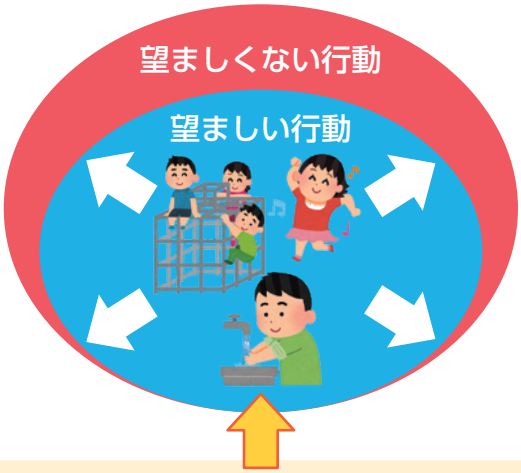
**認める・ほめるための工夫**

- できた行動や努力をほめる，認める，タイミングよくほめる
- できたことを可視化する（シールやカード）
- 全部できなくても，できている部分を認める
- 失敗を適切にフォローする
- やろうとしている意欲をほめる
- サムズアップサイン（GOOD サイン）をおくる

## 幼稚園やこども園・保育園で有効なわけは？

### 幼児期の子どもに対するポジティブな関わりの必要性

基本的な生活習慣を身に着け、集団生活に向けて人と関わるルールを学ぶ幼児期だからこそ，**「子どもたちにとってわかりやすいルール作り」や「当たり前のことでも，できていることを認める」ことで成功体験を積み重ねることが重要です。**このように周囲の大人がポジティブな行動支援や適切なサポートを行うことが、就学に向けての子どもたちの自信につながります。




意欲的に活動することが増えると，よりよく生活しようとするため相対的に望ましくない行動は減っていきます。

**安心感と落ち着きのある園**

## どのような効果があるのでしょうか？

### ポジティブな園づくりで，期待できる効果

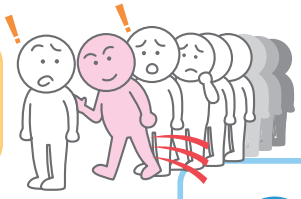
小学校での取り組みでは，児童対象のアンケートから「情緒不安定」や「問題行動」の項目の得点で改善が見られました。また，一部の学校では向社会的行動（人の役に立ちたい気持ちに基づく行動）の増加も報告されています。幼稚園やこども園でも，目標や成長・発達の状況によっては次のような効果が期待できます。

- 自発性や主体性の発揮
- 生活習慣と規範意識の形成
- 他者への思いやり
- 協同性や社会性の向上
- 問題行動の改善

## 実際の具体例を教えてください

A先生は担任しているBくんのことで悩んでいました。

あらっ！また！
Bくん，そんなことしたらダメよ！



注意してもなかなかよくならないわね～

A先生
（5歳児担任の保育教諭）

### 観察や見取りのポイント

「子どもの発達状況」
「これまでの生活経験」
「人間関係」
「周囲の環境」
などの視点から見ることが大切です。

### ポイント!!

子どもの行動の表面だけを見て改善しようとせず，背景情報やその子の思い・意図をくみとる姿勢は重要です。

## 1 まずは観察！

- いつ？
- どこで？
- 状況は？

A先生はBくんをよく観察しました。
また保育記録からBくんの記述を集めてみました。

A先生の観察の記録より

| エピソード |
| --- |
| ○月●日<br>みんなが並んでいるのを見てから動いていた。<br><br>△月○日<br>みんなと少し離れたところに並んでいる。 |

### 記録はとても重要です

普段の保育記録を取るときに
・行動の前後の状況
・回数，程度，いつ，どこでなどの情報を具体的に書き残しておきましょう。

## 4 取り組み開始

A先生は列に並ぶことを遊びの中でBくんに教えました。

A先生はBくんの好きな遊びを観察し

- リレー遊び
- 一本橋じゃんけん
- ボールパスゲーム

を計画的に採り入れました。

A先生はBくんだけでなくできている子どもたちをみんなほめました。
また，Bくんにはどんなところが良かったか具体的にほめました。

### ポイント!!

子どもに少しでも変化があったらほめてあげましょう。それが子どもたちの「わかった」「できた」に繋がっていきます。

### ポイント!!

取り組みの際は，スモールステップで進め子どもの様子や反応をよく観察しましょう。

## 5 集団への広がり

Bくんは少しずつ，指示を聞いて並べたり，足型を意識して並んだりすることができるようになり，A先生は，Bくんの成長を感じました。
そして，列に並ぶことがクラス全体に自然と広がっていることに気付きました。
また，自分が全ての子どもたちに同じようにポジティブに行動を教えていることにも気がつきました。

ゲームの時みたいに順番にならぼうね。

A先生の様子を見て，他の先生たちも同じように列に並ぶのが難しい子どもにポジティブな手立てを考え，みんなで同じように取り組むようになりました。

ポジティブな行動支援っていままで大事にしていたことだったんだ！

## 2 つぎに話し合い

**ポイント!!** 職員間で話し合いをすると多面的な子ども理解が深まります。

A先生はBくんが列に並べるようになるにはどうすればいいのか，同僚にBくんのことを相談しました。

記録を見ると自分から動けていないんだね。

Bくんは並ぼうとする意識はあるんだね。

Bくんはほめられるとパワーがでる子だよね。ほら，あの時も…

そういえば，くつをそろえられなかったけど，足型を置いたらならべているわね。

Bくんは６月生まれで初めての集団参加だったね。

もしかすると並ぶ位置がわからないのかな。

指示が聞こえていないのかも。

A先生はみんなの意見をもとに列に並ぶための工夫を考えてみました。

現在Bくんは・・・
- 並ぼうという意識はある。
- 言葉での指示より，目で見てわかる手がかりがヒットする。
- 保育者からほめられるとうれしそうにすることが多い。

## 3 準備

A先生は教えたい行動を「引き出す（増やす）工夫」について考え，それをもとに準備をしました。

1. 足型の設置
2. 指示を出す前にあらかじめ並び方を伝える。
3. 順番待ちを遊びの中で気づくような工夫をする。

足型があると，どこに並ぶのかわかりやすい！

事前に伝えることで，先生に注目できる。

## PBS 実施に関する Q & A コーナー

## ◆ 継続して実施していくためのポイントは？

### できていることの可視化

子どもたちのよい変化を記録し，グラフなどにして可視化することは，保育者のやる気を高めます。グラフなどを園内の保育者で共有することで，チームでの保育がより実践しやすくなります。

また，どのような指導が効果的であるか客観的に検証することができ，さらなる工夫・改善や保育者としての達成感につながるでしょう。

### 保育者同士の助け合い・相互承認

ポジティブな行動支援を進めていく中で，保育者同士で子どものことについて相談する機会が増えることが実践園の感想から明らかになっています。例えば…

『隣のクラスの園児の頑張っているところやいいところを見つけたら，積極的にその担任に「〇〇ちゃん，最近とても□□を頑張ってるね。」と伝えてみましょう。その会話から，お互いに保育の中での工夫についても情報共有ができます。』

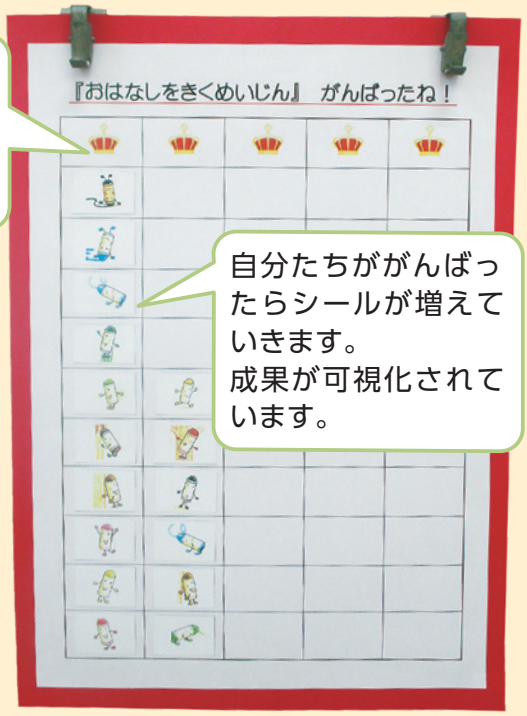
## ◆ 子どもから適切な行動を引き出す“コツ”はありますか？

### わかりやすくする工夫の例

- **具体的な指示**
  (指示は一つずつ，わかる言葉で)
- **活動の見通しやゴールを提示**
  (安心感をもって活動できるように)
- **ヒントや手がかりの用意**
  (ヒントとなる言葉がけをして「できた！」を増やし自信につなげる)

視覚的手がかりを提示しながら話すと効果的です。

一定程度シールがたまったら，ご褒美に楽しいことをします。




自分たちががんばったらシールが増えていきます。
成果が可視化されています。

がんばったねカード

## できているところをさがす

子どもと接するときには，つい「ダメな部分」に目がいきがちです。

少しでも「できているところ」を探すよう心がけると，子どもに対する見方が変わってきます。

できているところを探すことは，より深い子ども理解に結びつくだけでなく，成長や発達を促す立場である保育者の本来の姿といえるでしょう。

例えばこの二人になんと声をかけますか？

友だちのお助けマンをして，やさしいなぁ。

友だちに合わせてじっと動かないのは，いいね。

さっさとやって！

ボタンくらい自分でとめなよ！

## 保育者が取り組みやすくするための工夫

園全体または自分の学級で，ポジティブな行動支援を始めるときには，行動目標設定表（どのような行動を増やすかについての計画）や具体的目標の行動指導計画表（どうやって仕掛けを作り，どのように子どもを認め・ほめるのかの計画）を作ると，指導の基準がぶれにくく，また職員間の共通理解にも役立ちます。さらに指導が思うように進まないときにも，どこを改善すればよいかという点について点検がしやすくなります。

参考となるものは**「特別支援まなびの広場」**にあります。

特別支援まなびの広場はこちら！

### 行動目標設定表や具体的目標の行動指導計画表作成のポイント！

◆誰が読んでもわかるように具体的にしましょう。

◆誰がどのような役割を担うのかも決めておくとスムーズです。

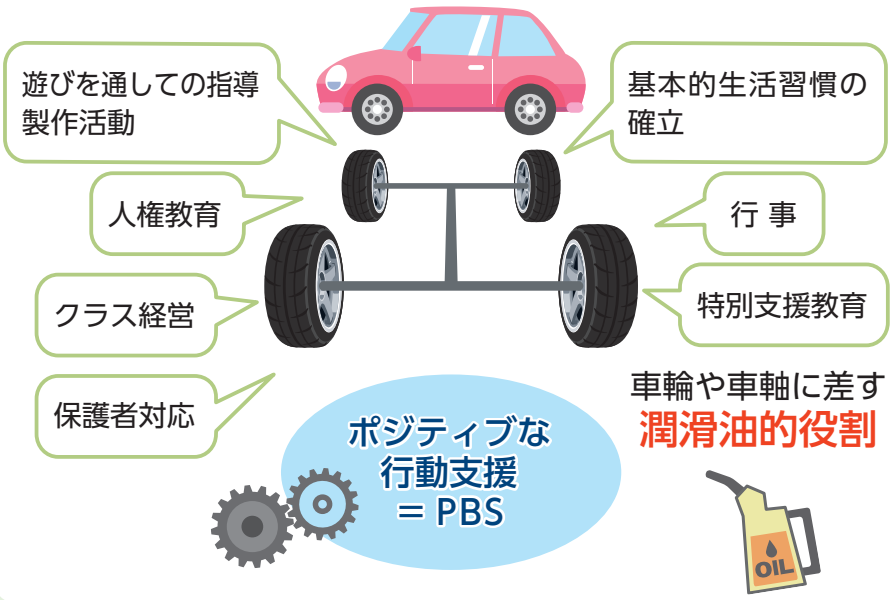
◆チームで話し合って作成する場合は，決める項目ごとに時間を区切って会議の時間短縮を意識することも大切です。

## ポジティブな行動支援との上手なつきあい方

幼稚園を車にたとえると，園で取り組んでいる様々な活動や教育が「車輪」と言えます。**ポジティブな行動支援は，新しいことを始めるのではなく，この車輪を円滑に回すための潤滑油として機能します。**

今，あなたの園で取り組んでいること，これから始めてみたいことにポジティブな行動支援が浸透すれば，うまく「車輪」を回してくれるでしょう。

### 園を動かす「車輪」の潤滑油に！



# ポジティブな行動支援に取り組んでみて…

石井町浦庄幼稚園
藤田 かおり 教諭

今までは子どもの悪い行動は注意をしなければ直らないと思い，子どもによく注意をしていました。叱ることもありました。

しかし，ポジティブな行動支援の研修を受けて，ほめることで望ましい行動が引き出せるということに気づくことができました。

気持ちの切り替えが難しい子どもも，日々ほめることを意識した関わりを続けていくことで，気持ちの切り替えがスムーズにできるようになったり，望ましい行動を自分から進んで行えるようになったりしました。

自分自身も保育者として，子どものよいところに目を向けることができるようになり，気持ちに余裕を持って子どもと関われるようになりました。

幼児のできないことや，よくない行動ばかりに目を向けていると，自分の保育者としての力のなさに悩み，ストレスをためそうになることがあります。

園全体でポジティブな行動支援に取り組むことで，担任の悩みを園全体で共有できるとともに，担任以外の先生方からもほめられ，よい行動につながる幼児の姿を全職員で確認していくことができました。幼児だけでなく，職員集団としても前向きな気持ちで取り組める支援だと思います。

石井町浦庄幼稚園
奥尾　梢 主任教諭

鳴門市明神幼稚園
多田 朱里 教諭

幼児の姿を肯定的に捉えることで，一人ひとりのよさに気づく機会が増え，自然と幼児の姿を笑顔で受け入れることができ，私自身の心のゆとりにつながったように思います。

また，幼児の言動だけを見た判断はもちろん，教師の思いが強すぎると，幼児の素直な思いやその子のよさに気づくことができないということも学びました。

これからも，一人ひとりの幼児の姿を温かく見守り，幼児の言動の背景にある思いを大切にし，幼児とともに生活を歩んでいける教師でありたいです。

やってみたいな，試してみようかなという方は！ぜひ！

**特別支援まなびの広場へアクセス！**

http://manabinohiroba.tokushima-ec.ed.jp/

特別支援まなびの広場　検索

詳しくは総合教育センターホームページ

パンフレットについてのお問い合わせ　徳島県立総合教育センター特別支援・相談課

〒779-0108　徳島県板野郡板野町犬伏字東谷1-7　☎088-672-5200　E-mail　tokubetsushien@mt.tokushima-ec.ed.jp

■このパンフレットは，徳島県教育委員会「発達障がい教育・自立促進アドバイザーチーム」の監修のもと作成しました。